

(平成26年2月18日)

第4回 赤松小三郎研究会のご報告

日時 : H26. 2. 18 (火) 18:30~20:30
場所 : 東京・文京シビックセンター 4F (シルバーセンター) 会議室B
出席者 : 18名

< 内容 >

1. 配布資料

(資料1) 『「坂本龍馬」の誕生 船中八策と坂崎紫瀾』を読んで 岡田渉さん作成
(資料2) 「年表」(幕末の政治情勢、上田藩の動きをからめて) 宮原安春さん作成
(資料3) 備考資料: 宮原安春さん作成

- ・赤松小三郎と英国公使館在住武官アプリンとの接点
- ・幕末を記録した海外史料一覧

2. 岡田渉さん(64期)による、

(1) 『「坂本龍馬」の誕生 船中八策と坂崎紫瀾』(著者: 知野文哉 出版社: 人文書院) の解説

- ・著者は「船中八策」は原本が存在しないことや、文体および当時の龍馬の行動からも後世の創作と位置付けている。
- ・龍馬が傑出した人物として描きだされるにあたって大きな役割を果たしたのが坂崎紫瀾(土佐出身のジャーナリスト)で、旧土佐藩の「勤王党」の人物の事績を顕彰するために書いたフィクション「汗血千里の駒」が明治後半、大正期に明治政府側の思惑も働き公的史料に編入されていったようだ。
- ・その後、第二次世界大戦後は司馬遼太郎の「龍馬がゆく」によって龍馬は民主主義の先駆者として人気を博す。

(2) 当研究会による赤松小三郎の復活再デビューへの提案

例1) 憲政記念館の秋の特別展へ、議会制度の提案者として赤松小三郎や当時の先駆者の考えや行動などを合同展示する。(⇒参加者から、「いっそのこと常設展示コーナーへ展示してもらおう」という意見有り。そのために当研究会は必要な情報・資料を揃える必要有り。)

例2) 赤松小三郎のご子孫と勝海舟・山本覚馬・永井尚志らのご子孫との同窓会企画

3. 宮原安春さん(58期)による、「年表」(幕末の政治事情、上田藩の動きをからめて)、及び備考資料の解説

- ・1860年(万延元年)上田藩士・門倉伝次郎が、赤松小三郎より4年前に藩命で英国総領事の護衛官のアプリン騎兵大尉に騎兵術を学んだ。一方、赤松小三郎は

- 藩命ではなく、門倉伝次郎に紹介してもらいアプリンに英文・英国兵法を学んだ。
- ・赤松小三郎はアプリンの下で短期間で英語をマスターするが、以前の長崎海軍伝習所時代にオランダ人を通じて蘭語の他に英語とも接触があったのではないか。
 - ・維新前後の日本を描いた英国人（アプリン、アーネスト・サトウ、オールコック、等々）の手記などを点検することにより従来の維新史を補足できる。
 - ・とにかく赤松小三郎についての史料が少ないのが残念。例えば京都で開いた私塾についてもはっきりした記録がない。本当に言われているように1866年（＝第二次長州征伐で上田藩が大阪出兵している時期）なのか？等々・・・ ちなみに松平春嶽らに提出した「**建白七策**」の**原本** が見つからない。

以上

赤松小三郎研究会事務局 小山平六（62期）
荻原 貴（79期）